

京都造形芸術大学 京都芸術劇場
毛利臣男芸術監督プログラム
京都造形芸術大学主催

『猿之助の世界 第三章 一市川猿之助とオペラー』

2007年5月19日(土) 15:00開演 京都芸術劇場 春秋座

モデレーター:毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)

出演:水谷由美子(山口県立大学教授) 柱本めぐみ(ソプラノ) 松園洋二(作曲家・伴奏ピアニスト)



詳細は3ページへ▶▶▶▶▶

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『みやこで楽しむ落語 ~上方の茶屋噺と江戸の廓噺~』

2007年6月2日(土) 14:00開演 京都芸術劇場 春秋座

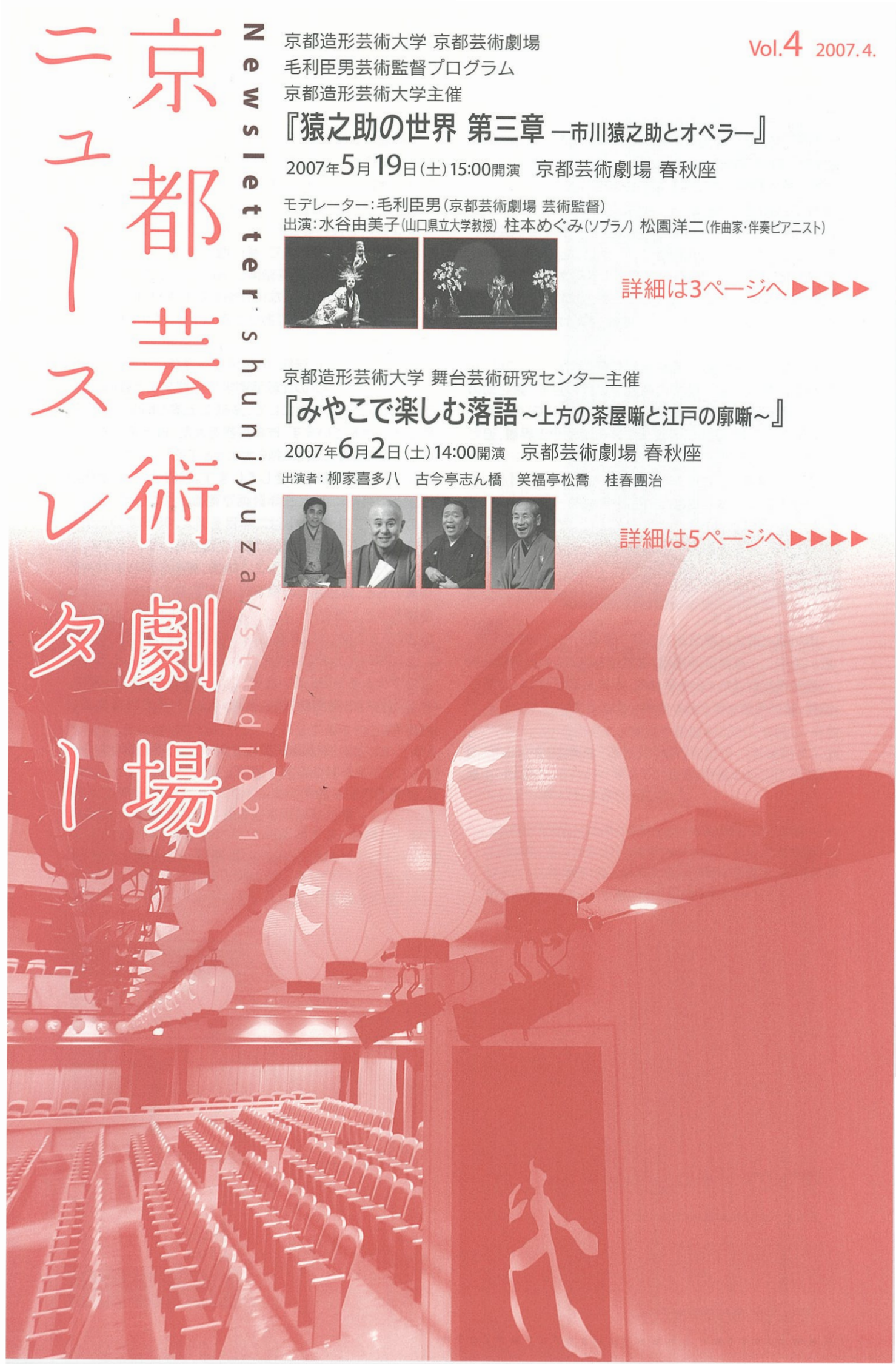
出演者:柳家喜多八 古今亭志ん橋 笑福亭松喬 桂春團治



詳細は5ページへ▶▶▶▶▶

京都芸術劇場
ニュースレター

News letter shunjiyuzaka studio21



2007年度ご挨拶

私が、京都芸術劇場初代芸術監督市川猿之助の後に継ぎ2代目芸術監督に就任して本年度で3年目を迎えます。これまでの2年間、春秋座を中心に舞台公演、トークショー、映画、お笑い等、特定のジャンルにこだわらず、多くの方々に身近な存在として、劇場のあるライフスタイルや芸術を楽しんで頂きたいと企画開催して参りました。また、私自身、空間演出家として、歌舞伎のスタイルを基本に作られた春秋座の機能を活用し、伝統を重んじた空間で21世紀の空間表現を出来るかということに挑戦し続けた2年間でもありました。

3年目を迎える本年、毛利芸術監督プログラムでは、初代芸術監督市川猿之助の創造の世界に迫る「猿之助の世界 第三章」、アートシアターギルド(通称ATG)の映画と多彩なゲストで、創世記の映画人達の情熱や世界観、迫力を伝えます。

そして、今まで『モーリのコラボレーション美学』としてスタジオ21で開催してきた仮面無言劇モーリ・マスク・ダンスを春秋座にて開催します。どんな状況でも屈しない人間力と美に対する純粋な心を春秋座で育みたいと思っております。

他にも昨年度とは異なるジャンルから全く新しい公演を企画しております。

市川猿之助は夢見る力を持つ素晴らしい芸術家です。近い将来ここ京都芸術劇場(春秋座を含む)から時代を担う若者達が羽ばたく日を夢見て、本年も素晴らしい時間と空間、喜びを皆さまと分かち合いたいと思います。

京都芸術劇場芸術監督
毛利 臣男

京都造形芸術大学・舞台芸術研究センターは、京都芸術劇場を拠点とし、舞台作品の上演を中心に据えた、開かれた研究活動を行っています。「伝統」から「現代」まで、「演劇」「ダンス」から上演芸術としての音楽まで、文字通り、多種多様な領域を扱いながら、狭い意味での「研究」に閉じこもるのではなく、世界中で、長い歴史を通じて「舞台」に蓄積されてきた知の財産を結集し、私たちがまさに今生きているこの時代にとって、なにが魅力的であり、創造的な刺激に満ちあふれた上演でありうるのかを、様々な角度から探求しています。

今年度もまた、「〈伝統〉の越境性」「身体/メディア/テクノロジー」「アジアの比較演劇学」「地域文化と芸能」という、四つのテーマを軸にして、多様な上演と関連する研究会が予定されています。昨年好評をえた、復元楽器をもちいて古代の響きを現代に甦らせようとする「コンサート・ジェネシス」は、第二弾を予定しています。歌舞伎役者・坂田藤十郎との共同により、三年計画で実施されている「上方和事の研究」プロジェクトは二年目を迎え、08年度の上演を視野においたさまざまな公開の企画を行っていきます。また、コンテンポラリーダンスと映像、美術の創造的な共同作業のもと、舞台芸術の根源的、今日的なアクチュアリティを探ろうとする「ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演『恋する虜』」は、来春、いよいよ本公演が行われます。

上に挙げたものはあくまでも一部であり、他にも多くのプログラムを予定しています。こうした研究成果の一部は、年二回発行の機関誌『舞台芸術』に、これまで同様掲載されます。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター



京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 京都造形芸術大学主催

猿之助の世界 第三章 一市川猿之助とオペラー

日時: 2007年5月19日(土) 開場14:30/開演15:00
会場: 京都芸術劇場 春秋座 入場無料

モデレーター: 毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)
出演: 水谷由美子(山口県立大学教授)
柱本めぐみ(ソプラノ)
松園洋二(作曲家・伴奏ピアニスト)

2005年度より始まった、京都芸術劇場初代芸術監督市川猿之助丈のエネルギーに満ちた表現世界を映像、トークショー等で紹介する特別企画『猿之助の世界』。

2005年市川右近丈と梅原猛氏出演による第一章〈スーパー歌舞伎ヤマトタケル〉。2006年ボローニャ大学教授ジョバンニ・アザローニ氏と市川右近丈出演の第二章〈猿之助歌舞伎とジャポニスム〉と今まで2回開催されました。いずれも古典芸能に初めて接するお客様でも、平易で分かり易くとても勉強になると毎年好評を博しています。この公演をきっかけに歌舞伎に興味をもたれる方も大変たくさんおられます。

2007年は、第三章〈市川猿之助とオペラ〉をテーマに開催致します。

市川猿之助丈は、スーパー歌舞伎などの演出はもちろんの事、フランス パリ・シャトレ劇場での公演、リムスキー=コルサコフ作「ル・コックドール(金鶏)」やドイツ バイエルン・スターツオパー劇場での公演、リヒャルト・シュトラウス作「影のない女」等のオペラ作品の演出を手掛け世界的にも高い評価を得ています。様々な歌舞伎の要素を融合した、斬新な演出技術は国内外で大きな話題を呼び、ヨーロッパ各国で幾度も再演されています。



毛利臣男 水谷由美子 柱本めぐみ 松園洋二

今回、市川猿之助丈がオペラという歌舞伎とは全く異なる新しい分野と出会い、いかに対峙し、革新的な作品を発表したということに注目し展開します。

研究者によるトークショー、市川猿之助丈が演出をしたオペラ作品の映像による紹介、そのオペラで歌われた曲の実演や2003年に、青山・スパイラルガーデンにて開催された空間展「モーリの色彩空間Part.7 OPERA!」にて出展された市川猿之助丈デザインによる「影のない女」の皇后のコスチュームも今回特別に舞台に飾ります。様々な角度から、市川猿之助丈の創造の世界に迫ります。

京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 京都造形芸術大学主催

『ATG Film Exhibition No.2』

日時: 2007年6月14日(木)~15日(金) 開場17:30/開演18:00
6月16日(土)~17日(日) 開場13:30/開演14:00

会場: 京都芸術劇場 春秋座

入場料: 4日間通しチケット¥500

モデレーター: 毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督)

榎本了彦(京都造形芸術大学教授情報デザイン学科長・クリエイティブディレクター)

アフタートークショーゲスト: 葛井欣士郎(映画・演劇プロデューサー)他、多彩なゲストが毎回登場致します。

上映予定作品: 実相寺昭雄監督作品『無常』、大島渚監督作品『儀式』
黒木和雄監督作品『竜馬暗殺』、高林陽一監督作品『金閣寺』

昨年度、4日間で1,500人以上の方が訪れ、大変好評だった『ATG Film Exhibition』を今年も、春秋座にて開催することが決定しました。

昨年は、『東京』をテーマに60年代~70年代の新宿を中心とする混沌とした時代を背景に生まれた、寺山修司監督作品「書を捨てよ町へ出よう」、大島渚監督作品「新宿泥棒日記」、松本俊夫監督作品「薔薇の葬列」、若松孝二監督作品「天使の恍惚」の4作品を春秋座にて上映しました。アフタートークショーも、足立正生(映画監督)、榎本了彦(京都造形芸術大学教授情報デザイン学科長・クリエイティブディレクター)九條今日子(人力飛行機舎代表)、葛井欣士郎(映画・演劇プロデューサー)、松本俊夫(映画作家)、四方田犬彦(映画史家)、若松孝二(映画監督)といった大変豪華な顔ぶれで行いました。

本年のNo.2では、『京都』をテーマに、70年代の京都を背景に挫折から内省へ向かった時代の映画4作品を上映します。昨年同様に、春秋座を映画館にして35mm映写機と大型スクリーンという本格的な機材を用いシネマコンプレックスやDVDなどのデジタル全盛の現在では体験する機会が少なくなった、大迫力と大音量という映画の醍醐味を体験できる空間をご提供します。

また、大変貴重なATG映画のポスターやカタログ等の資料を集めた、「ATGポスター葛井欣士郎コレクション」展も開催します。乞うご期待!

昨年度、アフタートークショー風景
左から平沢剛氏、葛井欣士郎氏、毛利芸術監督
撮影: 亀井友美



昨年度、映画上映前の劇場入り口付近に並ぶ列
撮影: 亀井友美



昨年度、ATGポスター葛井欣士郎コレクション展
会場風景

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催

かみがた わごと

『上方和事研究会』連続企画

舞台芸術研究センターでは、主任研究員の田口章子(本学教授)を中心に上方和事研究会を立ち上げ、歌舞伎俳優の坂田藤十郎、中村翫雀、学習院大学名誉教授諏訪春雄、松竹株式会社脚本家今井豊茂らと共同研究をおこなっています。目的は上方和事の研究と元禄時代の藤十郎の和事の完全復活。二年目の今年は「元禄和事復元の道」というテーマでシンポジウムを開催し、研究成果を発表します。

現在おこなわれている上方和事は十八世紀以降の義太夫狂言であって、それ以前の上り和事ではありません。十八世紀以降の上り和事も衰退の危機に瀕している現在、まず、十八世紀以前の上り和事の舞台をあきらかにすることからはじめようとスタートしました。元禄和事の復元は単なる復古作業ではありません。現在の歌舞伎が無くしてしまった①型成立以前の役者の創意・工夫・演技、②三味線のリズムに支配される以前の日本人の身体・生理のリズム、③江戸人・東京人による一元支配以前の上り和事の発想・情緒などの掘り起こしを通して、日本文化の失われた半分の可能性を明らかにします。



今回は歌舞伎俳優の坂田藤十郎、狂言師の茂山忠三郎、上方舞の山村若ら実演者の協力を得て、舞台上で影響を受けたとおもわれる芸能との関係をさぐり、元禄和事の演技の間合を可能なかぎり再現します。公開シンポジウムの成果をふまえて、三年目となる来年には元禄の藤十郎歌舞伎を復元し、春秋座で上演実験をする予定です。

シンポジウムとともに、一連の企画として「坂田藤十郎 近松座歌舞伎公演」と「映画上演 平成の坂田藤十郎～大名跡に挑む、熱き魂の記録～」をお届けします。

歌舞伎の上演演目は「鏡獅子」と「廓文章 吉田屋」。坂田藤十郎襲名記念公演としておこなわれます。「平成の坂田藤十郎～大名跡に挑む、熱き魂の記録～」は坂田藤十郎の演劇運動の軌跡を映画化したものです。「坂田藤十郎」をキーワードに、映画、シンポジウム、歌舞伎公演の体験は、「上方文化」再発見のきっかけになることでしょう。

公開シンポジウム『元禄和事復元の道』

げんろく わごと

日時:2007年5月23日(水) 13:30開場/14:00開演

会場:京都芸術劇場 春秋座

料金:無料(要事前申し込み 3月20日(火)より受付)

参加者:坂田藤十郎(歌舞伎俳優)

茂山忠三郎(狂言師)

山村若(上方舞)

諏訪春雄(学習院大学名誉教授)

田口章子(舞台芸術センター主任研究員/本学教授)

申込方法:Ⅰ 往復葉書に ①住所 ②氏名 ③電話番号 ④入場希望者数(葉書1枚につき3名様まで)を明記の上、下記までお送りください。締め切り 5月14日(月)消印有効

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

Ⅱ 京都芸術劇場チケットセンター窓口(平日午前10時～午後5時)にて、直接お申し込み下さい。

記録映画『平成の坂田藤十郎 ～大名跡に挑む、熱き魂の記録～』(語り:桂米朝)

日時:2007年5月20日(日) 13:30開場/14:00開演

料金:500円

会場:京都芸術劇場 春秋座

舞台芸術研究センター協力公演

歌舞伎公演『坂田藤十郎襲名記念 近松座歌舞伎公演 No.18』

日時:2007年5月23日(水) 17:00開演 5月24日(木) 13:00開演・17:00開演

会場:京都芸術劇場 春秋座 料金:S席8,000円 A席6,000円 ※全席指定

製作:松竹株式会社/(株)アロープロモーション

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『みやこで楽しむ落語 ~上方の茶屋噺と江戸の廓噺~』

日時:2007年6月2日(土) 開場13:30/開演14:00

会場:京都芸術劇場 春秋座

出演者:柳家喜多八 古今亭志ん橋 笑福亭松喬 桂春團治

入場料:前売 3,000円(一般) 1,500円(学生&ユース)

※全席指定 ※当日は各500円増

日本を代表する廓文化を育ててきた京都。今回は「廓」をテーマに、東西の噺家による江戸の廓噺と、上方の茶屋噺をたっぷりお楽しみいただきます。

江戸時代、江戸には江戸の、上方には上方の風土のなかで生まれ育った落語が存在しました。地域によって多様な個性を生み出し、江戸と上方に集約されるそれらの地域が互いに交流し、刺激しあいながら日本の文化がつくられてきたことを、再認識することができるでしょう。演目は、江戸は柳家喜多八「五人廻し」と古今亭志ん橋「幾代餅」、上方は笑福亭松喬「三枚起請」と桂春團治「親子茶屋」。話芸の神髄を味わうことができる公演です。

(京都造形芸術大学 舞台芸術センター主任研究員 田口章子)

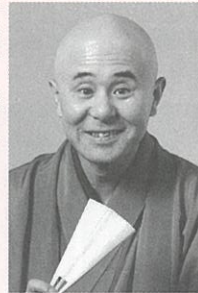
桂春團治



笑福亭松喬



古今亭志ん橋



柳家喜多八



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

『みやこで常磐津を楽しむ』

日時:2007年6月30日(土) 開場13:30/開演14:00

会場:京都芸術劇場 春秋座

主な出演者:常磐津文字太夫(十七世家元)

常磐津一巴太夫(人間国宝)

常磐津勘寿太夫 常磐津一佐太夫

常磐津三蔵 常磐津都瓦蔵

常磐津文字蔵 常磐津八百二

若柳壽延(若柳流四世家元)

山村若(山村流六世宗家)

入場料:前売3,000円(一般) 1,500円(学生&ユース)

※全席指定 ※当日は各500円増

江戸時代のなかごろ(延享4・1747年)に生まれ、花のお江戸で大流行した常磐津節という音曲(音楽)。京都出身の創始者・常磐津文字太夫が江戸で一世を風靡して以来、こんにちにいるまで情緒豊かで、ドラマチックな世界を展開し続けています。

劇的であることから、歌舞伎の舞踊劇とむすびついて発展しましたが、太夫と三味線の演奏による語り物としての浄瑠璃の醍醐味には圧倒されるものがあります。

今回は、常磐津の代表的な演目を中心に、素浄瑠璃としての常磐津と、舞踊の伴奏曲としての常磐津の両方を体験することで、常磐津節の魅力を探りたいと思います。

(京都造形芸術大学 舞台芸術センター主任研究員 田口章子)

プログラム

一 新作舞踊「松島」

若柳壽延
山村若

浄瑠璃

常磐津一佐太夫
常磐津都代太夫
常磐津和英太夫
常磐津三代太夫

三味線

常磐津都瓦蔵
常磐津都史
上調子
常磐津小東矢

二 乗合船恵方万歳

浄瑠璃
常磐津勘寿太夫
常磐津清若太夫
常磐津和洸太夫
常磐津秀三太夫

三味線

常磐津三蔵
常磐津小欣矢
上調子
常磐津三之祐

対談 十七世家元 常磐津文字太夫(聞き手 田口章子)

三 積恋雪関扉

浄瑠璃
常磐津一巴太夫
常磐津和佐太夫
常磐津菊美太夫
常磐津巴瑠幸太夫

三味線

常磐津八百二
常磐津巴之吉
上調子
常磐津祐二郎

四 老まつ

浄瑠璃
常磐津文字太夫
常磐津初勢太夫
常磐津菊美太夫

三味線

常磐津文字蔵
常磐津斉蔵
上調子
常磐津菊与四郎

近畿高等学校演劇連盟/京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター 主催

高校演劇コンクール近畿大会優秀校 第6回春秋座招待公演『演じる高校生』

公演日:2007年1月14日(日) 会場:京都芸術劇場 春秋座

「演じる高校生」は、京都造形芸術大学が地域との交流・貢献を目的として、高校演劇コンクール近畿大会上位2校を春秋座に招待、上演する企画で、今年で6回目となる。観客数が史上最高だったこともあり、今年は例年にも増して活気に満ちたものとなった。

兵庫県立西宮今津高校は、人間と神の間で苦悩する南北朝時代の天皇の姿を中心に、日本人の精神性に切り込む作品を独自の美意識で創り上げ、追手門学院大手前高校は、卒業旅行の騒動の中で成長していく男子5人の友情をコメディタッチで描いた。全く異なる作風の2作品だが、共通していたのは「作らないといけなから作った」のではなく、「作りたいから作った」という高校生自身の強い意志の力が表れていたことだ。



熱気溢れる観客席で舞台を観ながら、昔、知り合いの女性が高校生の演劇を観て言った言葉を思い出した。「高校生の身体には、他の世代にはない美しさがあるね」。確かに観客はそういうものを求めて劇場に来ているのかもしれない。それはおそらく「高校生」ではなく、「高校生」と名付けられた未来に向かう人たち——躊躇せず、恐れず、新しいものを作り出そうとする人間の姿のことだ。完成度や技術の問題などすっ飛ばして、人間の根本的な可能性のようなものが表れてくる瞬間。何がどんな風に表現されてもOKなはずの舞台という場所を通して、様々な世代の観客が未来の人たちの新しい息吹を、エネルギーを感じとろうと欲望する。

いつか「演じる幼児」や「演じる中高年」が上演されるようになったら、その時舞台には何が立ち表れるのか。「演じる○○」には、まだたくさんの可能性がある。

(舞台芸術研究センター研究員 細見 佳代)

京都造形芸術大学主催

春秋座アンサンブル・シリーズ第5回

「語らいう弦の響き -長岡京室内アンサンブル-」

公演日:2007年1月27日(土)

会場:京都芸術劇場 春秋座

出演:森 悠子 谷本 華子(ヴァイオリン)

増永 雄記 中田 美穂(ヴィオラ)

五味 敬子(チェロ) 長谷川 順子(コントラバス)

石橋 敬三(マンドリン)

プログラム: F.メンデルスゾーン 弦楽のためのシンフォニア 第4番 ハ短調

R.ガニニュー 弦楽オーケストラまたは弦楽五重奏のためのシャコンヌOp.55
(森悠子委嘱作品)

石橋 敬三 ティープ・オブセッション(マンドリン・ソロ)

A.ヴィヴァルティ マンドリン協奏曲 ハ長調 RV.425

L.V.ベートーヴェン 弦楽五重奏曲 ハ長調 Op.29

D.ミヨー 弦楽五重奏曲 第2番 Op.316



春秋座ならではの空間をいかして、アンサンブルの楽しさと醍醐味をお届けするコンサートシリーズ。第5回目は長岡京室内アンサンブルのメンバーによる弦楽アンサンブルの豊かな響きをお楽しみいただきました。

長岡京室内アンサンブルの持つ緊密で洗練された技術と凝縮力の高さ、高度な表現法、音楽性の豊かさは既に高い評価を得ていますが、今回はマンドリンの石橋敬三がヴィヴァルティのマンドリン協奏曲でアンサンブルに参加。大学のマンドリンオーケストラへ入部してからマンドリンを始めたという石橋は、自身による作曲で2006年第2回大阪国際マンドリンコンクール作曲部門最高位を受賞した「ティープ・オブセッション」(マンドリン・ソロ)も演奏、マンドリンの魅力を余すところなく披露していただきました。

この第5回をもちましてシリーズは終了いたします。これまで春秋座アンサンブル・シリーズにご来場くださいました皆様、ありがとうございました。



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

ジャン・ジュネのテキストに基づくダンス公演 『恋する虜』のためのワーク・イン・プログレス 『ジュネへ応答する8日間』

日時: 2007年3月8日(木)~15日(木)

会場: 京都芸術劇場 studio21

参加アーティスト: 岩下徹、砂連尾理、白井剛、隅地菜歩、寺田みさこ、山田せつ子(以上 振付家・ダンサー)、
伊藤高志(映像作家)、杉山至(舞台美術家)、ワークショップ参加メンバー 他

3月8日(木) 18:00~21:00 ワークショップ・セッション

3月9日(金) 18:00~21:00 ワークショップ・セッション
*ゲスト・アーティスト: 室伏鴻(舞踏家)

3月10日(土) 18:00~20:30 映像×ダンスの実験

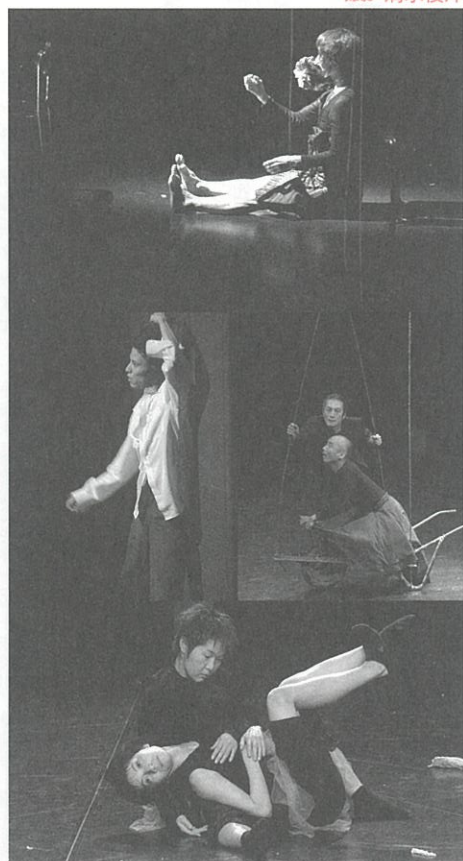
3月11日(日) 11:00~20:30 美術×ダンスの実験

3月12日(月) リハーサル

3月13日(火) リハーサル

3月14日(水) リハーサル

3月15日(木) 18:00~20:30 実験のまとめのダンス・プレゼンテーション



京都造形芸術大学 舞台芸術研究センターでは、ダンサー／コレオグラファーで主任研究員(本学教授)の山田せつ子を中心に、ジャン・ジュネ(1910-86)の作品に基づくダンス公演『恋する虜』(2008年3月に予定)に向けて、「創作」と「研究」が緊密に連繋した共同プロジェクトを展開しています。単に劇場のプログラムとして公演を行うだけでなく、ジュネの作品とそれに関わる多様な問題について考えながら、テキストの微細な運動や言語の質感をダンスの身体や空間へと結びつけていくための実験や研究を重ね、現代における舞台表現の根源的な可能性を探っていくとする試みです。今回の「ジュネへ応答する8日間」は、昨年11月の公開セミナー「裏切りとしての身体—ジュネの言葉とダンスの出会いの場所」に続いて、そのプロセスを広く公開する「ワーク・イン・プログレス」として開催されました。

8日間にわたって、参加ダンサーとゲスト・アーティストによるワークショップ、舞台空間における映像や美術とダンスの相互作用の実験、そして最終日にはひとまずのまとめとしてのプレゼンテーション公演が行われ、観客の皆様からも多くの意見や感想をいただきました。今回の催しを通して得られたさまざまな発見や課題を改めて検証し、発展させながら、新たな「漂流」的試行を続け、1年後の本公演につなげていきたいと考えています。今後ともこのプロジェクトにぜひ関心をお寄せください。

*2006年11月5日に行われた公開セミナー「裏切りとしての身体—ジュネの言葉とダンスの出会いの場所」のドキュメントが、舞台芸術研究センター企画・編集『舞台芸術』11号(全国の大型書店、京都芸術劇場チケットセンターにて取り扱い)に掲載されています。

— 瓜生山草 —

春になる。心がウキウキする。劇場は公演のたび「春」になる。演目もお目当てだが、ちょっとしたいい服を着たり、帰りにはいつもより食事を張り込んだり、陽気になり日常とは違う。劇場はそういう意味では異常の世界だ。

マスコミが毎日芸能報道をするから、ごく日常に思われるが、劇場に来る時から帰るまで、いつもより気持ちは異常に盛り上がる。うつかりすると注意がおろそかになり、行き過ぎた行為に巻き込まれたり、危険と隣り合せだ。

劇場の事故は観客を含めキャスト、舞台スタッフ、フロントスタッフ、清掃関係まで大人数だから、さまざまな要因で大惨事にもなる。些細なミスからとんでもないことにならないよう細心の注意を張り巡らすことが必要だ。

と言っても心がウキウキしたいもの。これは得体が知れず百触れて一つ出会えるかどうか? もっと頻度が低いのかな? 危険と隣り合わせでも、やはり出たい。

これって人生と同じ? 無難に生きるか、リスクが判って好きなものを探す旅に出るのか?

時は春。心がちょっとウキウキ、変ですか?

だから出会えるんでしょう? 野辺に咲く花達がそう言うてるように思えます。

自信と誇りをお持ち下さい!

(岩田)

京都芸術劇場
ニューズレター
Vol.4
2007.4.

発行: 京都芸術劇場
発行人: 毛利臣男 太田省吾
編集人: 岩田廣明
デザイン: 清水俊洋
発行日: 2007年4月1日

月	日	曜日	開演時間	催し物	内容	会場	問合せ先	チケット販売
4月	9	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	2007年度は、前期(上方と周辺の芸能) 後期(江戸と周辺の芸能)をキーワードに、日本伝統芸能の第一線で活躍している専門家に、実演をまじえながら解説していただく公開講座です。コーディネーター: 田口章子 【前期】第1回「上方と周辺の芸能」 総論/諏訪春雄	春	京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター TEL 075-791-9124 (平日9時~17時/土曜9時~16時)	常時受付 各期 10,000円 ※受講申し込みは問合せ先へ
	16	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第2回「御神楽」 実演/伏見稲荷大社(解説/木戸敏郎)			
	23	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第3回「聲明」 実演/天台宗総本山比叡山延暦寺法儀音律研究会(解説/木戸敏郎)			
5月	7	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第4回「落語」 実演/林家染丸	春	京都造形芸術大学劇場企画運営室 TEL 075-791-9207	入場無料 ※事前申込可
	14	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第5回「絵解き」 実演/関山和夫			
6月	19	土	15:00	京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム 猿之助の世界 第三章 市川猿之助とオペラ	市川猿之助が演出したオペラの世界をテーマに、様々な角度から猿之助の多才な創造の世界に迫ります。 モデレーター: 毛利臣男(京都芸術劇場 芸術監督) 出演: 水谷由美子(山口県立大学教授)、柱本めぐみ(ソプラノ)、松園洋二(作曲家・伴奏ピアニスト)	春	京都芸術劇場チケットセンター TEL 075-791-8240 舞台芸術研究センター TEL 075-791-9437	【発売中】500円
	20	日	14:00	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 映画「平成の坂田藤十郎 ~大名跡に挑む、熱き魂の記録~」	公開シンポジウム「元禄和事復元の道」とともに、「坂田藤十郎」をテーマとした一連の企画として、坂田藤十郎による演劇運動の軌跡を記録した映画を上映します。ぜひ歌舞伎公演、シンポジウムと合わせてご覧ください。語り: 桂米朝			
	21	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第6回「平曲」 実演/今井勉(解説/関山和夫)			
	23	水	14:00	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 公開シンポジウム「元禄和事復元の道」	上方和事の研究と元禄時代の坂田藤十郎の和事完全復活を目的とした上方和事研究会による公開シンポジウム。 参加者: 坂田藤十郎(歌舞伎俳優)、茂山忠三郎(狂言師)、山村若(上方舞)、諏訪春雄(学習院大学名誉教授)、田口章子(本学教授)			
	23	水	17:00	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター協力公演 坂田藤十郎襲名記念	坂田藤十郎襲名記念公演として、正月恒例行事鏡曳きの日に、江戸城大奥に出現した獅子の精を描いた「鏡獅子」と、師走の大坂・新町の遊郭を舞台にした「廓文章 吉田屋」を上演します。 出演: 坂田藤十郎、中村吉太郎、坂東竹三郎、中村魁春 他			
	24	木	13:00/17:00	近松座歌舞伎公演 No.18				
	28	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第7回「壬生狂言」 実演/壬生大念仏講員			
	2	土	14:00	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 みやこで楽しむ落語~上方の茶屋囃しと江戸の廓囃し~	「廓」をテーマに、東西の廓家による江戸の廓囃しと、上方の茶屋囃しを上演します。 演目: 柳家喜多八「五人廻し」、古今亭志ん橋「幾代餅」、笑福亭松喬「三枚起請」、桂春園治「親子茶屋」			
	4	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第8回「上方舞」 実演/山村若			
	11	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第9回「能」 実演/片山清司			
14	木	18:00	京都造形芸術大学 京都芸術劇場 毛利臣男芸術監督プログラム ATG Film Exhibition No.2	1970年代の京都を背景に、挫折から内省へ向かった時代のATG作品4本を上映します。ゲストトーク、映画ポスターの展示なども予定。上映予定作品: 「無常」(実相寺昭雄監督)、「儀式」(大島渚監督)、「竜馬暗殺」(黒木和雄監督)、「金閣寺」(高林陽一監督)				
15	金	18:00						
16	土	14:00						
17	日	14:00	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第10回「京舞」 実演/井上八千代(聞き手/田口章子)				
18	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第11回「文楽」 実演/竹本綱大夫、鶴澤清二郎				
25	月	16:10	2007年度公開連続講座 日本芸能史	コーディネーター: 田口章子 【前期】第11回「文楽」 実演/竹本綱大夫、鶴澤清二郎				
30	土	14:00	京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催 みやこで常磐津を楽しむ	江戸時代中頃に生まれ、歌舞伎の舞踊劇と結びついて発展した常磐津節。本公演では、常磐津の代表的な演目を中心に、素浄瑠璃としての常磐津と、舞踊伴奏曲としての常磐津を通じて、その魅力を探ります。 出演者: 常磐津文字太夫(十七世家元)、常磐津一巴太夫(人間国宝) 他				

2007年4月~6月 京都芸術劇場スケジュール

凡例— 春 春秋座公演 S studio21公演 指定席 自由席 電子チケットぴあ取扱 <http://t.pia.co.jp/> 未就学児の入場も可
*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金 *ユースとは、学生または25歳以下対象

チケットお問合せ先
京都芸術劇場チケットセンター … TEL: 075-791-8240 (営業: 平日10:00~17:00/公演開催日)
E-mail: ticket@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都造形芸術大学
京都芸術劇場
Shunjuza / Studio 21

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel 075-791-9207 fax 075-791-9438
URL <http://www.k-pac.org/>

